

# The 3rd International Symposium for Media Art

# “Formation of Culture in the Post-Internet Era: Creation, Production and Network”

**Creativity in the Age of Internet**  
**Two-day symposium to explore new processes of the formation of culture**

**February 2nd (Sat) 13:00-17:00, 3rd (Sun) 13:00-18:00, 2019**

**Venue: NTT InterCommunication Center [ICC]**

Free Admission (Pre-registration required)  
Capacity: 250 persons  
English-Japanese simultaneous interpretation available

Organized by the Japan Foundation Asia Center,  
Arts Council Tokyo (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)  
Specially Supported by NTT InterCommunication Center [ICC] (Nippon Telegraph and Telephone East Corporation)



## 登壇者

### 和田永 Ei Wada

アーティスト、ミュージシャン [日本]  
Artist, Musician [Japan]

1987年生まれ。大学在籍中より音楽と美術の間の領域で活動を開始。2009年より「Open Reel Ensemble」「Braun Tube Jazz Band」として活動。ISSEY MIYAKEのバリコレクションでは、これまで11回に渡り音楽に携わる。2015年より、あらゆる人々を巻き込み、役割を終えた電化製品を電子楽器として蘇生させ、合奏する祭典をつくるプロジェクト「エレクトロニコス・ファンタスティコス!」を始動し、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。2018年にはPrix Ars ElectronicaとStarts Prize '18栄誉賞のダブル受賞を果たした。  
<https://eiwada.com>

### ルー・ヤン Lu Yang

アーティスト [中国]  
Artist [China]

上海生まれ。ビデオ、インスタレーション、アニメーション、デジタルペインティング、ゲームなどの多様なメディアを使い、生命の本質と環境をめぐる問題を探求する。科学、宗教、心理学、神経科学、医学、ゲーム、ポップカルチャー、音楽から取り出した方法を重ねあわせ作品を制作。これまでにヨーロッパ、アメリカ、アジアにて作品を発表しており、日本ではルー・ヤン展「電磁脳神教—Electromagnetic Brainology」(スパイラルガーデン、2017)が開催され、話題を呼んだ。  
<http://luyang.asia>

### dj sniff

ターンテーブル奏者、DJ、キュレーター [日本]  
Musician, DJ, Curator [Japan]

1978年生まれ。2004年にニューヨーク大学インタラクティブ・テレコミュニケーションズ・プログラム (ITP) で修士課程修了。2012年までオランダのSTEIM電子楽器スタジオでアーティストック・ディレクターとしてさまざまなプロジェクトを企画。演奏家としてはターンテーブルと独自の演奏ツールを組み合わせながら実験音楽／インプロビゼーション／電子音楽の分野で活動。2017年まで香港城市大学School of Creative Mediaで客員助教授を務め、現在は東京に拠点を移して活動を続けている。  
<http://www.djsniff.com>

### FNMNL

カルチャー・ウェブマガジン [日本]  
Culture web magazine [Japan]

FNMNL (フェノメナル) は、2016年に始動したニュースサイト。音楽サイトのディレクター経験者や国内外で活躍するフォトグラファー等が在籍し、国内外の音楽やファッション、アートなどの新しい潮流をいち早く伝えている。ローカルのアーティストとの関係性などを活かし、インターネット上の情報に敏感な次世代のクリエイターとともに、次なるカルチャーシーンを作ることを目指している。2018年からは韓国・VISLA Magazineとの協働企画も展開している。  
<http://fnmnl.tv>

### 金澤韻 Kodama Kanazawa

インディペンデント・キュレーター／  
十和田市現代美術館学芸統括 [日本]  
Independent Curator / Senior Deputy Director of Curatorial Affairs, Towada Art Center [Japan]

現代美術キュレーター。熊本市現代美術館など公立美術館での12年の勤務を経て、2013年に独立。2017年から十和田市現代美術館の学芸統括としても活動。近年の主な展覧会に「毛利悠子：ただし抵抗はあるものとする」(十和田市現代美術館、2018)、「Enfance/こども時代」(パレ・ド・トーキョー、パリ、2018)、「ラファエル・ローゼンダー：ジェネロシティ 寛容さの美学」(十和田市現代美術館、2018)、「茨城県北芸術祭」(茨城県、2016) がある。  
<https://kodamakanazawa.com>

### Eyedropper Fill

(ワッタナブーム・ラーイスワンチャイ、  
ナンタワット・ジャラットルアンニン)

マルチメディア・デザイン・チーム [タイ]  
Multimedia design team [Thailand]

映像、インタラクティブデザイン、展示デザインやインスタレーション作品などを制作するプロダクションチーム。メディアテクノロジーと専門性・技術力を駆使した学際的アプローチによる創作が特徴。ニューメディアによる実験的かつ複合的な表現により、情報から経験を生み出すことを目指す。また、ニューメディアによる創造活動を社会に浸透させるため、大学でのワークショップや講義を通じて次世代への教育にも積極的に取り組んでいる。  
<http://www.eyedropperfill.com>

### tomad

オーガナイザー、DJ / Maltine Records主宰 [日本]  
Organizer, DJ / Head of Maltine Records [Japan]

2005年、当時15歳でインターネットレーベル「Maltine Records」を開始。これまでに170タイトルをリリース。国内外のメディアにて紹介され、ダンスポップミュージックの新しいシーンと、東京の同時代のイメージを象徴する存在として注目される。これまでにマニラや中国、ニューヨークでイベントを開催。海外アーティストの楽曲リリースも多数。2015年には設立10周年を記念し、レーベルの活動をまとめた『Maltine Book』(スイッチパブリッシング)を刊行。  
<http://maltinerecords.cs8.biz>

### 川田洋平 Yohei Kawada

編集者 / 『STUDIO VOICE』ディレクター [日本]  
Editor / Director of Studio Voice [Japan]

大学卒業後に編集プロダクションに入社。2013年にハイパーローカルな東京23区シティカルチャーガイド「TOMAGAZINE」を立ち上げ、以降6号目まで編集長を務める。2015年に独立し、書籍や広告等の編集ディレクションを中心に手がける。主なディレクションワークに星野源「YELLOW MAGAZINE」、博報堂「恋する芸術と科学」ラボ発行「jozo 2050」、蜷川実花監修パラスポーツグラフィックマガジン「GO Journal」、カルチャー雑誌「STUDIO VOICE」(INFASパブリケーションズ)など。

### VISLA Magazine

カルチャー・ウェブマガジン [韓国]  
Culture web magazine [Korea]

2013年に韓国・ソウルで誕生したインディペンデント・ウェブマガジン。ファッションや音楽、アートなどを中心に、韓国のみならず日本やアメリカ、ヨーロッパのカルチャーシーンを紹介。その活動はウェブだけに留まらず、2017年からはフリーペーパー「VISLA Paper」を年間4回発行。地元・ソウルのストリートカルチャーシーンと密に連携し、イベント企画、プロダクト製作など、既存のメディアの枠組みにとらわれない活動を展開している。  
<http://visla.kr>

### 若林恵 Kei Wakabayashi

編集者 [日本]  
Editor [Japan]

1971年生まれ。ロンドン、ニューヨークで幼少期を過ごす。早稲田大学第一文学部フランス文学科卒業後、平凡社入社、『月刊太陽』編集部所属。2000年にフリー編集者として独立。以後、雑誌、書籍、展覧会の図録などの編集を多数手がける。音楽ジャーナリストとしても活動。2012年に『WIRED』日本版編集長就任、2017年退任。2018年、黒鳥社 (blkswn publishers) 設立。著書「さよなら未来」(岩波書店)、責任編集「NEXT GENERATION BANK 次世代銀行は世界をどう変える」(黒鳥社 / 日本経済新聞出版社・2018年12月刊行)。  
<https://blkswn.tokyo>

### 豊田啓介 Keisuke Toyoda

建築家 / 建築デザイン事務所noiz共同主宰 [日本]  
Architect / Co-founder of Noiz architects [Japan]

1972年生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。安藤忠雄建築研究所を経て、コロンビア大学建築学部修士課程修了。SHoP Architects (2002-06) を経て、2007年より東京と台北をベースに建築デザイン事務所noizを蔡佳萱と共同主催 (2016年より酒井康介もパートナー)。コンピューターショナルデザインを積極的に取り入れた設計・製作・研究・コンサルティング等の活動を、建築からプロダクト、都市、ファッションなど、多分野横断型で展開している。  
<https://noizarchitects.com>

### リアル・リザルディ Riar Rizaldi

アーティスト、研究者 [インドネシア]  
Artist, Researcher [Indonesia]

人間とテクノロジー、電子機器やイメージの流通とネットワークの介入の関係性に関心をもつ。作品を通じて (無) 時間の観念やイメージにある政治性、メディア考古学、人間の生活におけるテクノロジーの影響を問い直す。2017年にはジャカルタ国際ドキュメンタリー実験映像祭 (ARKIPEL)、2018年には展覧会「Internet of (No)Things」(ジョグジャカルタ) でキュレーターを勤める。バンドゥンにあるアートコレクティブSALONの共同設立者。現在、香港城市大学博士課程在籍。  
<http://rizaldiriar.com>

### マーヴィン・コナナン Marvin Conanan

PURVEYR設立者、編集長 [フィリピン]  
Founder, Editor in Chief of PURVEYR [Philippines]

企業での勤務を経て、フィリピンで生み出される創造的価値を発信するため、2012年にPURVEYRを設立。2015年から全精力を注ぎ、この6年の間で、PURVEYRを多様なデジタル・コンテンツを複合的にプロデュースするブランドへと成長させる。年1回の雑誌出版、2軒の小売店の経営、他にも毎年多くのイベントを主催するなど、創造的なコミュニティに関わる包括的なメディア / ソーシャルブランドとなるためさまざまなことに取り組み、情熱をもってフィリピンのクリエイティブ文化を牽引している。  
<http://purveyr.com>

### 畠中実 Minoru Hatanaka

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]  
主任学芸員 [日本]  
Chief Curator, NTT InterCommunication Center [ICC] [Japan]

1968年生まれ。多摩美術大学美術学部芸術学科卒業。1996年の開館準備よりICCに携わり「サウンド・アート」(2000)や「サイレント・ダイアログ」(2007)、「[インターネットアートこれから]—ポスト・インターネットのリアリティ」(2012)等、多数の企画展を担当。このほか、ダムタイプ、明和電機、ローリー・アンダーソン、八谷和彦、ライゾマティクス、磯崎新、大友良英、ジョン・ウッド&ポール・ハリソンといった作家の個展を行なう。  
<http://www.ntticc.or.jp>



第2回メディアアート国際シンポジウム  
「“アート&テクノロジー”—創造・教育・アーカイブのために—」  
(2018年2月) Photo: Ryohei Tomita

## | 会場 Venue |

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]  
NTT InterCommunication Center [ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー4階  
◎京王新線「初台駅」東口から徒歩2分 (都営地下鉄新宿線乗り入れ、新宿から2分)  
◎渋谷駅西口バスターミナルから京王・都営バスで約20分  
Tokyo Opera City Tower 4F, 3-20-2 Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-1404  
2 minutes walk from Hatsudai station (east exit) on the Keio New Line | About 20 minutes from bus terminal, Shibuya station (west exit)  
<http://www.ntticc.or.jp>

## | お問い合わせ Inquiries |

メディアアート国際シンポジウム事務局 (株式会社ノット内)  
To administrator of the International Symposium for Media Art (c/o Knot Co. Ltd)

TEL | 03-5784-0174  
(平日 10:00 ~ 17:00 ※土日・祝日は除く)  
FAX | 03-6690-2569  
E-mail | [mediaartsympo@knot-inc.co.jp](mailto:mediaartsympo@knot-inc.co.jp)